

言えない。今後はこの調査をさらに継続してカエルの生息状況と生息数の減少状況をより明らかにするとともに、内分泌攪乱化学物質等の影響が生殖系や甲状腺系に及んでいるかどうかを調査し、生息数の減少を防ぐための提言をまとめる必要がある。また、トノサマガエルとダルマガエルとの交雑の状況はこれらの種の個体数の減少に直接影響を及ぼすだけに、今後精力的に調査する必要がある。

(B)北陸地方

1)新潟県村上市

昨年に続き、村上市周辺地区でイモリの生息状況を調査した。越後早川地区では、極端にイモリ生息数が減少している。この原因は水路をコンクリートで固めたこと、一年を通して採集が可能であるため研究用に頻繁に採集されたことによると思われる。図5に1980年代と現在の状況を示した。一方、村上市から少し山の中に入った中継、大毎、高根、大栗田地区などの田圃あるいは用水路にはイモリも多く生息していることが確認された。これは、これらの地区が人為的な影響を余り受けていないことによると思われる。

表1：本年度の調査（東海・北陸地方）で生息が確認された両生類のリスト

両生類

有尾目

サンショウウオ科

ヒダサンショウウオ *Hynobius kimurae*

ハコネサンショウウオ *Onychodactylus japonicus*

イモリ科

アカハライモリ *Cynops pyrrhogaster*

無尾目

アマガエル科

ニホンアマガエル *Hyla japonica*

ヒキガエル科

アズマヒキガエル *Bufo japonicus formosus*

アカガエル科

ニホンアカガエル *Rana japonica*

ヤマアカガエル *Rana ornativentris*

タゴガエル *Rana tagoi*

トノサマガエル *Rana nigromaculata*

ツチガエル *Rana rugosa*

ウシガエル *Rana catesbeiana*

ダルマガエル *Rana brevipoda*

ヌマガエル *Rana limnocharis limnocharis*

アオガエル科

シュレーゲルアオガエル *Rhacophorus schlegelii*

モリアオガエル *Rhacophorus arboreus*

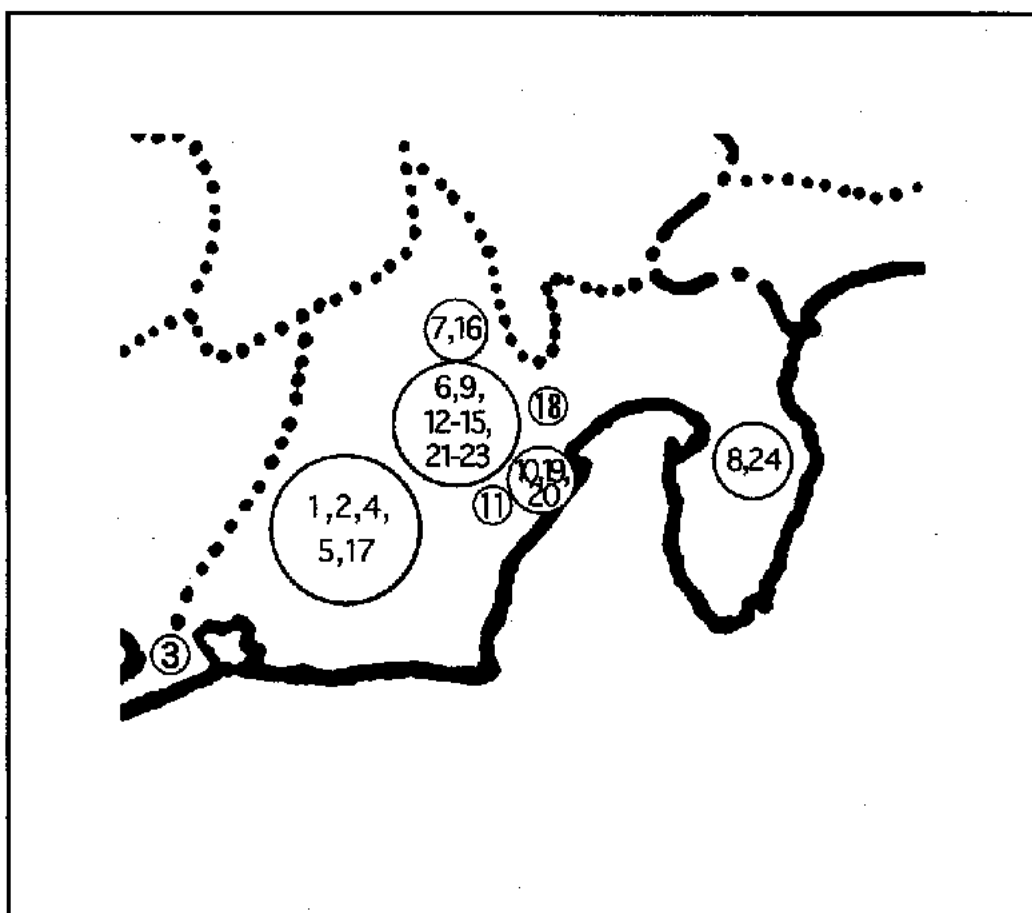


図1 静岡県における本年度の調査場所

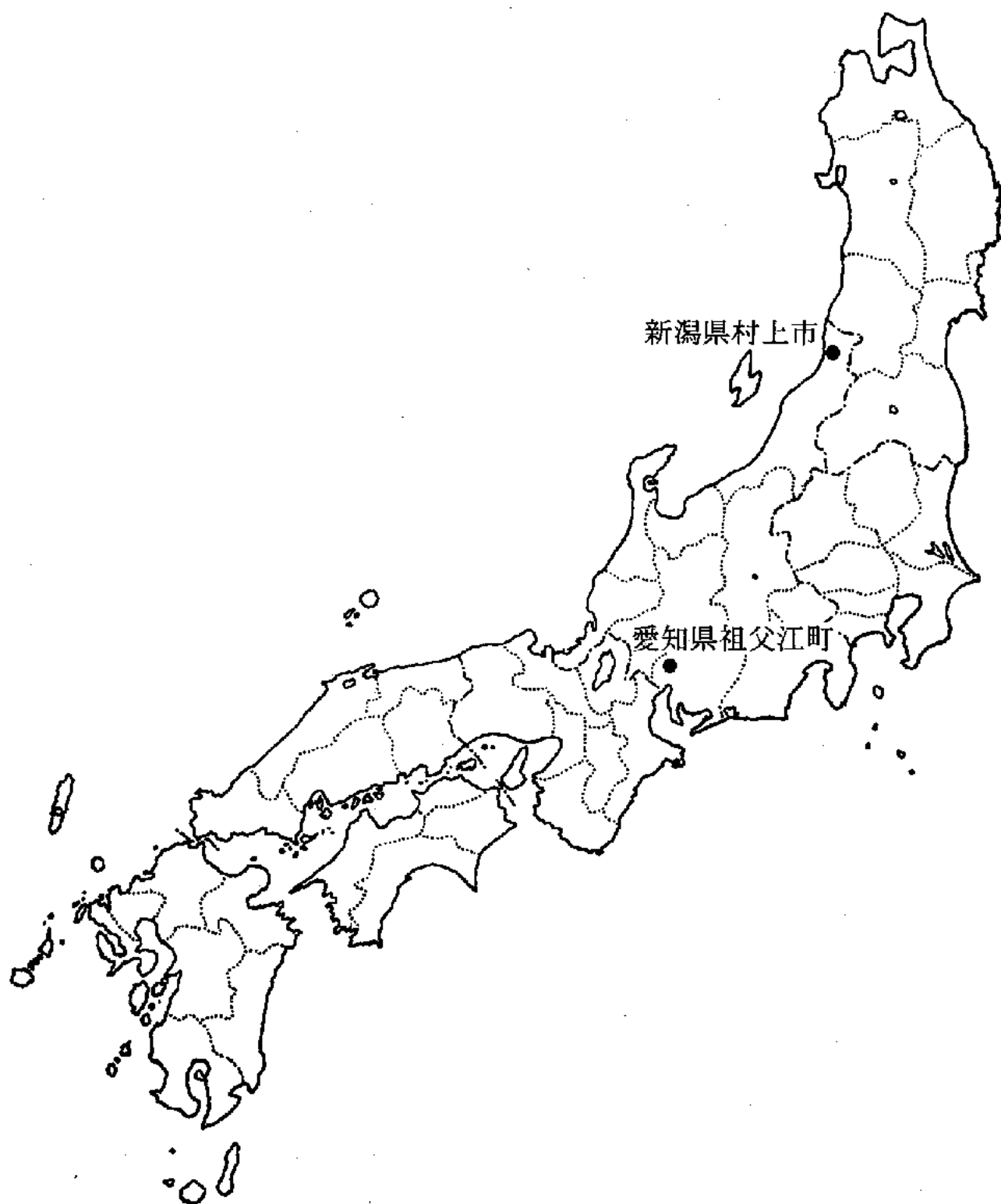


図2 東海・北陸地方における本年度の調査場所

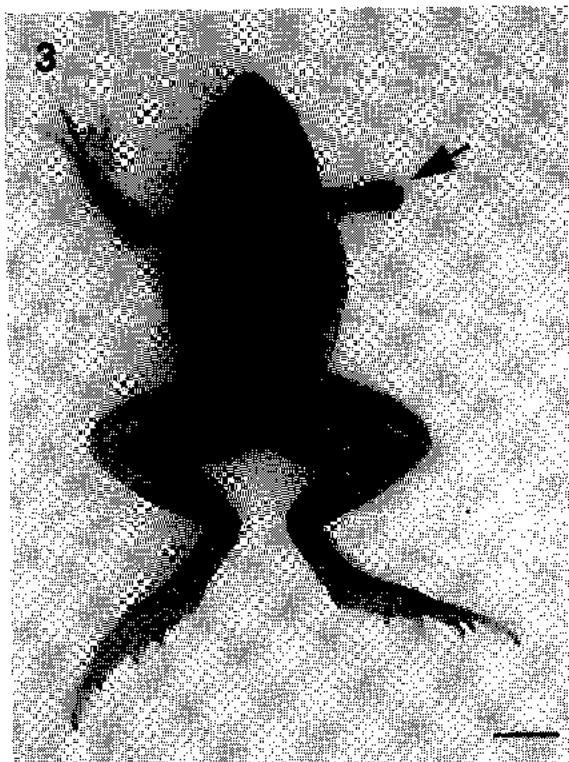
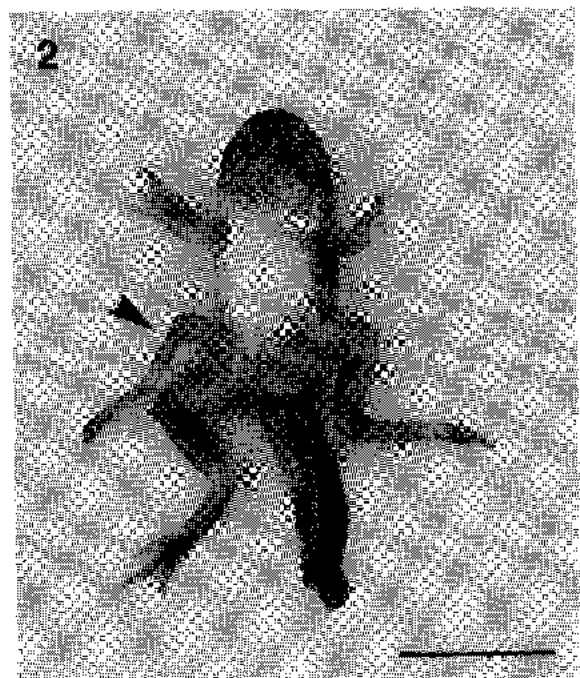
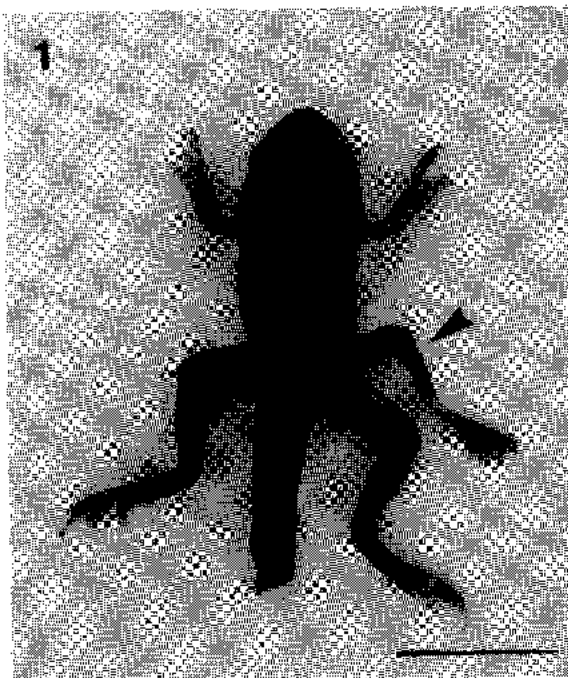


図3. 今年度の静岡地区の調査によって発見された奇形カエル
 (1)、(2) 藁科川右岸、飯間地区で発見された過剰肢ヌマガエル
 (3) 右前肢に異常が見られたダルマガエル
 (4) 大谷内区で発見された前後肢奇形ニホンアマガエル